

総合計画及び総合戦略等調査 特別委員会記録

令和2年7月2日

摂津市議会

目 次

総合計画及び総合戦略等調査特別委員会

7月2日

会議日時、場所、出席委員、説明のため出席した者、出席した議会事務局職員、審査案件-----	1
開会の宣告-----	2
副市長挨拶	
委員会記録署名委員の指名-----	2
令和2年度のスケジュールについて	
第4次摂津市総合計画基本計画及び摂津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について	
市民意識調査の概要について-----	2
説明（政策推進課長）	
質問（安藤薫委員、三好俊範委員、檜村一臣委員、森西正委員、光好博幸委員）	
閉会の宣告-----	25

総合計画及び総合戦略等調査特別委員会記録

1. 会議日時

令和2年7月2日(木) 午前10時 1分 開会
午前11時48分 閉会

1. 場所

第二委員会室

1. 出席委員

委員長	南野直司	副委員長	光好博幸	委員	安藤 薫
委員	森西 正	委員	檜村一臣	委員	三好俊範

1. 説明のため出席した者

副市長 奥村良夫
市長公室長 大橋徹之 政策推進課長 大西健一

1. 出席した議会事務局職員

事務局長 牛渡長子 同局主幹兼総括主査 香山叔彦

1. 案件

- ・令和2年度のスケジュールについて
- ・第4次摂津市総合計画基本計画及び摂津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について
- ・市民意識調査の概要について

(午前10時1分 開会)

○南野直司委員長 ただいまから、総合計画及び総合戦略等調査特別委員会を開会いたします。

まず、理事者から挨拶を受けます。

奥村副市長。

○奥村副市長 おはようございます。

本日は、委員の皆様方には大変お忙しいところ、総合計画及び総合戦略等調査特別委員会を開催いただき、ありがとうございます。

前回の特別委員会におきましては、第4次総合計画基本計画の改訂等についてご説明をさせていただきました。

本日は、令和2年度のスケジュール、第4次摂津市総合計画基本計画及び摂津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括、市民意識調査の概要についてご説明いたしますので、忌憚のないご意見を頂きますようよろしくお願い申し上げます、冒頭の挨拶とさせていただきます。

○南野直司委員長 挨拶が終わりました。

本日の委員会記録署名委員は、安藤委員を指名いたします。

それでは、令和2年度のスケジュールについて、第4次摂津市総合計画基本計画及び摂津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について、及び市民意識調査の概要についての説明を受けます。

大西政策推進課長。

○大西政策推進課長 おはようございます。

それでは、資料についてご説明をさせていただきます。

A3の資料1、スケジュール案をご覧ください。

初めに、一番上の段に記載しておりますのが、三役及び全部長級で構成いたします

庁内会議体の行政経営方針等策定委員会となっております、6月11日に第1回目を開催し、今年度計5回を予定しております。

次に、2段目に記載しております産官学等との懇談会につきましては、国から総合戦略を策定していく過程で地方創生に向けた有識者の専門的見地を伺うことが望ましいとされており、今年度計3回程度を予定しております。

次に、3段目の行政経営戦略策定につきましては、今年度のおおむねの作業工程となっております。

上半期につきましては、総合計画、総合戦略の総括及び市民意識調査を行ってまいりたいと考えており、本格的な次期計画の策定作業につきましては下半期と考えております。

4段目の、総合計画及び総合戦略等調査特別委員会につきましては、本日を含めまず計3回を年度で開催を考えております。

9月末から10月上旬頃を予定しております第2回におきましては、市民意識調査の結果概要と総合計画、総合戦略の総括概要をお示ししたいと考えております。

1月末頃を予定しております第3回目は、行政経営方針及び行政経営戦略の案をお示ししたいと考えております。

今年度のスケジュール案については以上でございます。

続きまして、資料2-1をご覧ください。

総括につきましては、総合計画、総合戦略を一括で行っていきたいと考えております。

資料には、総括から策定までの流れを記載させていただいており、これまでの取り組みや各指標の進捗、市民意識調査を踏まえ総括を行ってまいります。

そして、これからの社会環境の変化等を

踏まえ、各施策の課題を整理し、行政経営戦略の策定につなげてまいりたいと考えております。

次に、資料2-2をご覧ください。

こちらにつきましては、各所管課が作成をしてまいります総括評価シートの構成についてご説明をさせていただきます。

まず、本日お示ししております評価シートに既に記載をされている文言等につきましては、現行の総合計画の基本計画及び実施計画と総合戦略に記載している文言等を転用しているものでございます。

資料の1ページ目、上段につきましては、現在の総合計画と総合戦略のどの政策・施策を総括しているのか、また、関連している各種計画などを示す欄となっております。

続きまして、総合計画に掲げます施策の展開ごとに、実施計画に記載しております各計画に基づきどのような取り組みを実施したのかを示す欄となっております。

なお、おのおのの記入欄右上に、総計、戦略と表示しておりますのは、各取り組みが総合計画、総合戦略のどちらに該当するのかを示しているものとなっております。

3ページ目をご覧ください。

3ページ目につきましては、総合計画に掲げております指標の状況となっており、この項目では総合計画の中間見直しを行った平成27年度の数値と令和元年度の実績値を記載していきたいと考えております。その中で、5年間でどれだけ指標が進捗したのかを示していこうと現在考えているところでございます。

なお、左端に記載しております1から7の整理番号につきましては、資料1ページ目から2ページ目の施策の展開と連動している番号となっております。

続いて、4ページをご覧ください。

4ページ目の上段は、後ほどご説明をさせていただきます、市民意識調査の結果を示してまいります。

この項目では、市民の皆様が各施策を日常的にどう感じられているかというのを、満足度と期待度の平均値を分布で表記していこうと考えております。

中段以降の施策の総括につきましては、1ページ目から2ページ目の取組実績、3ページ目の指標の進捗、4ページ目上段の市民意識調査結果を総合的に踏まえ、施策の課題を示していきたいと考えております。

そして、社会環境の変化等も考慮し、今後の方向性を示していき、次期計画につなげてまいりたいと考えております。

評価シートの構成については、以上でございます。

続きまして、市民意識調査の概要についてご説明いたしますので、資料3-1をご覧ください。

市民意識調査は、これまでの総合計画及び総合戦略の総括と次期計画策定の基礎資料とすることを目的に、総合計画の全50施策について質問をしてまいります。

なお、この50施策につきましては、総合戦略のほうの全18施設も包含しているというふうに考えております。

アンケートの対象者は、住民基本台帳の令和2年6月1日を基準日とし、本市職員及び本市市議会議員は対象から除いた上で無作為抽出し、18歳以上の6,000名の方に郵送配付をしたいと考えているところでございます。

また、質問につきましては、お一人、全50施策を一括でご質問させていただきますと、質問数がかかなり多くなってまいり

ますので、回答率の低下が懸念されます。

調査票は50施策を3分割させていただき、17施策で17問となっております、お手元の資料3-2の調査票A、同じく17施策で17設問となっております、資料3-3の調査票B、16施策で16設問となっております、資料3-4の調査票Cを、おのおの2,000名の計6,000名に行ってまいりたいと考えているところでございます。

また、市民意識調査のスケジュールにつきましては、7月号の広報誌にて市民意識調査の告知を行い、7月中旬頃に調査票を発送し、8月初旬頃を回答期限と考えております。

なお、回答方法につきましては、郵送と、今回から試行的ではございますけれども、インターネットの選択制の回答を考えているところでございます。

次に、調査票の構成についてご説明をさせていただきますので、資料3-2をご覧ください。

1ページ目は回答者の属性を聞く項目となっております。

開けていただいて2ページ目は、調査票の見方と回答方法を記載しております。

3ページ目以降は、総合計画の各施策の満足度、期待度をはかる設問となっております。

それぞれ5段階で回答を求めるものとなっております。

また、各設問は総合計画及び総合戦略の施策と連動しており、各施策のイメージが湧きやすいように、設問の上段に分野を記載しております。

また、各設問にございます黒塗りのひし形の横に記載しております文言は、施策の主な取り組みを記載しており、より設問の

イメージが湧くようにと考えております。

なお、資料3-3、3-4も同様の構成となっております。

各資料の説明については以上でございます。

○南野直司委員長 説明が終わりました。

それでは、質疑に入りたいと思います。質問、ございましたら。

安藤委員。

○安藤薫委員 それでは、幾つかしておきたいと思います。

今回7回目ということでもいろいろ進んできているかと思うんですけども、今回の今後の計画の中で2点ちょっとお聞きしたいのが、まず、スケジュール案の中の真ん中のところにあります、外部組織として産官学等との懇談会というものがあまして、総合計画・総合戦略の総括、市民意識調査までの間に1回と、それから行政経営戦略案を作成過程で2回目と、様々な修正を行って素案をつくり上げるまでに1回と、全3回を想定されておられます。

まず、この産官学等の懇談会というのはどういった、具体的な構成ですね、どういったメンバーでやられるのかというのが一点、それからもう一点は、それぞれの回で書かれていますが、社会状況の変化を踏まえた、本市の地方創生の課題についてということになっておりますが、特に社会状況の変化を踏まえた、社会状況の変化というのはどんなことを想定しておられるのかということをちょっとお聞きしたいのが一点です。

それから、もう一つ、一番上、庁内検討の、3月、一番右にあります、パブリックコメントの結果についてというのがあります。

いろいろな個別計画を市が策定して決

定するまでの間にパブリックコメントというのがこの間行われてきてはいるんですけど、改めて、この行政経営戦略策定におけるパブリックコメントですね、目的というものを、基本的なことですけどちょっとお聞かせいただきたいというのが2点目です。

続いてお聞きしたいのは、市民意識調査の中身についてちょっとお聞きしたいです。

1点は、アンケート、つまり市民意識調査をする上で属性を調査される、これまでも意識調査、様々やってこられた中で、属性に男性・女性という性別を聞く項目があったと思います。今回は、この属性が、性別を聞く調査がちょっと抜けて、項目がないということなので、その点の意味合いです、どういったことなのか、お聞かせをいただけたらと思います。

それから、もう一点は数の問題ですね。約6,000人ということですが、これまで、前回は5,000人ほどでやっておられたけども、その人数と回答率の問題もいろいろあるかと思いますが、6,000人という人数に絞られた。その辺の根拠みたいなものがありましたら教えていただきたいということ。

それから、これも今までの調査を見ると、自由記述欄というのが設定されていました。かなり分析をする上では大変ですけども、広く摂津市政全般にわたって、総合計画基本構想は延長されておりますけれども、いうたら、今後5年間、さらには次の5年間に続く、大事な中心的な政策ということになりますから、市民の意識を聞くという上でも、項目にはないものについて意見を聞くという意味では自由記述欄というのはやはり必要ではないかなと思う

んですが、今回、自由記述欄がないことについて、ちょっとその辺のお考えをお聞かせいただけたらと思います。

それから、今回初めての取り組みとされる、回答の仕方で、郵送のほかにインターネット等ですね、もしくはQRコード等でスマホでも回答ができるということでもあります。

この辺、郵送も含めて、属性は書くけれども、名前は書かないということですので、個人の匿名性といいますか、そういったものも一定やっぱり担保されないといけないと思うんですけども、ネット等で匿名性等とか個人が特定されるとかいうようなことについて配慮なりあるのかどうかです、ちょっとお聞かせいただきたいと思っています。

あと、2点ほどお聞きしたいんですけども、今回の市民意識調査を含めて、全体の行政経営戦略を練っていく上で、基本計画の今までの総合計画の基本計画部分とそれぞれの個別分野の計画をマッチングさせながらまとめていくんだということではあるんですけども、それぞれの部署とか自分たちでつくっている計画の中には全庁的な課題としてある計画もあるんだと思うんですね。

例えば男女共同参画に関わる分野で言えば、全庁的に女性の社会進出であったりとか、女性の委員会への組織率を高めるといったものもあったり、もしくは、計画ではありませんけれども、子どもの貧困問題に関しては、教育委員会の次世代育成部が一応所管ではありますけれども、しかし全庁的にわたってやっていかなければいけない問題としてあると思うんです。

それが、それぞれの部署ごとで、所管ごとでつくっていく計画と、全庁でありなが

ら全庁的なものとしてやらなければいけないというところのその意識づけと申しますか、その辺の考え方でですね、いかに、所管はここだけでも全庁的にやるんだと、全庁的に意識をつけられるような仕組みという、そういったものをどういうふうにお考えになっておられるのか、お聞かせいただきたいと思っております。

以上です。

○南野直司委員長 大西課長。

○大西政策推進課長 7点ほどご質問を頂いておりますので、それぞれご回答させていただきますと思います。

まず1点目の、懇談会の構成はというご質問でございますけれども、懇談会の構成員といたしまして、現在考えておりますのが、産業、教育、地域コミュニティ、子育て、医療関係の専門家でありますとか、NPOをはじめとする関係団体の方を想定しております。

また、今回の懇談会では、国や大阪府の総合戦略と連携をしたSDGsの推進のところもポイントになってくると我々考えておりますので、今回、この構成委員の中で、一般社団法人SDGs推進士業協会の方からも参画をお願いしたいと考えているところでございます。

続きましては、この懇談会、どのような議論をしていくのかというご質問だったと思っておりますけれども、懇談会では、各分野の専門の方から摂津市が今どう見えているのか、そこからの課題、そして、今後取り組むべき施策の方向性について、ご意見を頂きたいと想定をしております。

とりわけ、昨今は、5月の新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の解除以降、新しい生活様式に切り替えていくということも社会状況としてはございます。

そこで、各分野の現場に関わる方々の実情をお伺いしながらですね、網羅的にどういうふうなことが考えられていくのかというのを議論していきたいなと思っております。

ただ、それぞれ分野が変わってきますので、懇談会という手法がいいのか、それぞれの専門の方にインタビュー形式でご意見を伺うほうがいいのかを我々としてはまだ検討をしているという段階でございます。

続きまして、パブリックコメントについてですけれども、現時点ではパブリックコメントについての考え方は、従前から申し上げておりますとおり、市民の方々に影響するような計画等を策定する上ではですね、一定の期間、おおむね30日程度を意見募集の期間として設けてご意見を頂戴していきたいと考えているところでございます。

続きまして、市民意識調査の属性が今回のところで性別がなくなったのではないかというご質問だったと思っております。

今回、この調査に関しましては、施策の総括で非常に大きいお話を聞いている部分がございます。そういった部分から、男女とか、その他LGBTの兼ね合いも含めまして、今回、そこを聞くということに、今回の調査は重きを置いていないところでございます。

そういったところから、今回、属性については外させていただいているところでございます。

また、今回この調査を作成するに当たりまして、やはり設問数をいかにコンパクトにして回答者の方にご負担なく回答をしていただきたいと思っております。ですので、1ページ目の属性のところに関しまし

ては、必要最低限度のことだけをお聞きしようと考えて、今の形をつくっております。

続きまして、アンケート調査6,000人の根拠でございますけれども、数の根拠というのはなかなか難しいんですけれども、これ、形はそれぞれ違うんですけれども5年置きに市民意識調査をやらせていただいております。

5年前は、委員もちょっとご紹介いただきましたけれども、約5,000人の方にお配りをしております。さらに、その5年前、今からいいますと約10年前でございますけれども、そちらに至っては4,500人の方に調査をやらせていただいているという形です。

今回、6,000人にした根拠というのは、明確にはございませんけれども、統計学的に少しお話をさせていただきますと、おおむね5,000人の方にお配りをし、大体1,600人の方に回答を頂けると、おおむね、そこに回答から導き出せる数値の信憑性は9割以上と言われているところでございます。

ここの1,600人という数字でございますけれども、5,000人から考えたらおおむね30%弱の回答率があるであろうという形になっております。

今までの市民意識調査のアンケートで申し上げますと、大体40%ぐらいの回答率は頂いておりますので、回答率自体に対しては、今回、インターネット等も活用しながらなので、ある程度、回答していただけるかなと思っているところでございます。

続きまして、自由記載欄のところのお話でございます。

まず、これ、なぜなくしたのかというお話ですけれども、大きく申し上げますと2

点ございます。

まず1点目でございますけれども、先ほどから少しお話をさせていただいております、今回、インターネットでの回答を実現していくために、極力選んでいただける、チェックボックスだけをつくっていくと考えておりましたので、その部分で自由記載の部分というのは、テクニカルな部分で少し難しい部分もあったので、今回はなくさせていただいているというところ です。

もう一つ、2点目でございますけれども、今回、全施策になっております、自由記載のところ、市民のほうから毎回頂く、ほかのアンケート等でもそうですけれども、やはり事業のお話というのが非常に多くなってまいりますので、各分野別計画をつくられていくときに、アンケート調査も行われます、その部分でご意見を頂ければと我々としては考えているところでございます。

続きまして、関連して、インターネットでのアンケートのプライバシーのお話でございますけれども、こちらのほう、QRコードで読み込んでいただいて、そのときに、IDを調査票に附番をしておりますので、IDを入れていただいて、そこにつな がっていくという形を考えておりますので、不特定多数の方が答えられない仕組みをつくっております。

最後でございます。各分野別計画ですね、所管それぞれがつくられている計画を全庁的というお話でございますけれども、それぞれ各分野で計画をつくられてい ます。

例えば、地域福祉計画であれば保健福祉課が策定をしております。ただ、地域福祉計画の中身を見ますと、高齢介護課の話で

あったり、生活困窮であれば、生活支援課の話であったり、分野でくくっていくのが、次の計画をつくっていく上で非常に重要だと思っております。その分野を統括してどこが引っ張っていく計画を策定した、地域福祉計画で言えば保健福祉課であると思っております。

今回、この意識づけの仕組みづくりとして、今まで進捗管理についてはファジーと申し上げますか、きっちりやっているところとやっていないところというのが現状ございました。

そこを是正していくために、行政経営戦略を策定するのと同時に進捗管理についても各分野別計画と統一した進捗管理表のフォーマットをつくっていききたいなと思っております。

分野別計画の主たるところの所管が、例えば地域福祉計画であれば保健福祉課がその計画の中に入っている事業を担っている高齢介護課であったり、生活支援課に対してどうなっているのかというのをヒアリングしながら、進捗管理を行っていく仕掛けにはしていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○南野直司委員長 安藤委員。

○安藤薫委員 産官学のメンバーについては、各分野の専門的な立場から課題等を意見してもらおうということで理解はいたしました。

新しい生活様式の中で、今ちょっとご説明頂いたんですけれども、社会状況の変化、本当にこの4年間というのは非常に社会状況というのは大きく変化してきたと思います。

特に大阪北部地震から始まって、西日本豪雨であったり、台風21号などですね、

かつてないような集中豪雨であったり、風雷であったり、地震であったりということで、災害と行政と市民との関係、また、今回のように世界的な感染流行で社会の仕組みそのものが問われているのではないかなという状況も生み出されており、今は新型コロナウイルス感染症ですね。

感染症流行に対して、政治が、もしくは地方行政がどのような対応をしているかなければならないのかということも、本当に考え直していく岐路に立っているときの行政経営戦略を見直していこう、つくっていこうということでもありますから、それぞれの専門分野から、この間の社会状況、特に災害に対応する行政、感染症に対する在り方、あと、この間の行政の進め方の中ではですね、前回のこの特別委員会の中でも説明がありましたけれども、人、物、金という最小限の資源で最大限の効果を得る、そのための五つの視点で物事を見ていくんだというのが基本的な方針としてご説明を頂いたんですが、そもそも、最小限の形で本当に最大限のものが得られるのかどうなのか。

これまで効率を優先することによって人員は削減したと、そして、民間の経営も生かしながら何とかやってこれたけれども、例えば保健所が大阪府内で減らされてきたり、医療機関が減ってきたり、もしくは、市の職員が大幅に削減されてきた中で、本当に大変なときに市民生活との連携をとったり、市民生活を支えていくというような点で、果たして今までのやり方で本当にいいのだろうかというような視点での議論を、私、必要になっている時期だというふうに思っています、基本構想はそのままですけども、基本構想に掲げられているのは、まさにそういったことを網羅した

議論を求めていると、私は思うんですよ。

本当、そういうことが掲げられているわけで、専門分野の皆さんからは、やはりそういう立場からのぜひ意見徴収をしていただいて、総括は総括としてやっていただいた後の経営戦略をつくっていく策定の段階でそれをきちんと反映できるようにしていただきたいなというふうに思うんですが、ちょっとその点、ご見解をお聞きしておきたいと思います。

それから、パブリックコメントについてですけども、ちょっと改めて目的、何のためにとるのかなということなんです。

これは行政手続法か何かで規定されているものですので、行政や国の機関が、一定の計画であるとか、または命令を発するときには市民から幅広く意見を聞くためのものだということでもありますので、これは絶対に欠かせないというものだとして理解しております。

この間、いろいろ摂津市の個別の計画であったり、それから総合計画などいろいろな計画策定のときにパブリックコメント等が募集されたりしていたわけですけども、場合によっては素案づくりに非常に時間がかかってしまって、年度末、時間が本当にぎりぎりしかない、ゴールが決められてパブリックコメントの期間が非常に短くなってしまうというようなことがあったのではないかと。

特に今回、2月、3月、新型コロナウイルス感染症の流行によって公共施設等も閉められて、利用制限が加えられたりするような状況が生まれていた中で、幾つかの計画の素案が出されてパブリックコメントも募集されましたが、そのパブリックコメントの計画自体の素案を見る、閲覧する場所にもなかなかアプローチしづらいと

か、それから、情報量が余りにも多いので、それを理解する上での時間が一定必要ではないかという問題とか、その期間の問題も、やはり何の工夫もないまま今回終わってしまったと私は思っているんですね。

今回がそうというわけではないと思うんですけども、パブリックコメントはきちんとやっぱ時間をしっかりとって、閲覧場所であるとか、閲覧方法であるとか、それから市民の皆さんから得る情報をきちんと精査するという時間を確保するためにもしっかりと時間をとる、それから重要視してやっていただきたいというふうに思うんですけども、今までのパブリックコメントは、入ってくる数なども含めてですね、ちょっともう一回その点のお考えをお示ししていただけないかなと思います。

それから、全庁的な問題について、今、分野別それぞれ所管するところが責任を持ってやって管理をしていくことが大事だとおっしゃられました。そういう方向であるならばですね、きちんとした計画が立てられるような総括をまずしていただく。今まで、場合によったら曖昧とおっしゃいましたが、進行管理が曖昧だったり、なかなか意識が全庁的に行き渡ってなかったこともあったのだろうと僕は思っているんですね、いろんな場面見て。そういった面も含めてですね、やはりきちんとした総括ができるように私はやっていただきたい。

その部署だけの、所管している部署だけの総括ではなくて、全庁的に関わるものであれば、取りまとめはその部署であったとしても、全庁的なものとして意見集約をした上で総括ができるような体制を組んでいくようなやり方を進めてこそだと思いますので、その点もちょうともう一回お聞

かせいただきたいなと思います。

それから、意識調査ですね。属性に、今、性別がないというですね。

この間の性的マイノリティの問題等で、男性、女性とあえて聞く必要があるのかどうかというような議論も一部はあることは承知していますが、一方で、例えば男女共同参画とかジェンダー問題であるとか、市政全般にわたって、やはり男性、女性それぞれの立場からの意見を聞くという、もしくは意識を確認する、もしくは期待度を確認するという意味では、男性、女性というその属性も大事になるのではないかなと思うんですね。

設問数を減らしたいというようなお考えは分からんでもないんですけども、やはり基本的な情報として、この地域のこの年齢層の男性、もしくは女性が男女共同参画について満足しているのか、男性と女性、当然違いが出てくるかと思うんですね。

この男女共同参画等の計画というのは、さまつな問題ではなくて、摂津市全般にわたる、全庁的な課題として言えば非常に重要な問題で、個別分野だけで聞いたら済むというような問題ではないと私は思っているんですけども、その点、もう一度、どうお考えなのか、聞かせていただきたいと思います。

6,000人の数については、今までの数のこととおっしゃられましたけども、数の問題と、あと、広がりの中でちょっと気になっています。

平成18年の意識調査、基本構想をつくるときの意識調査は、今回と同じように、たくさんある分野別の課題を三つか四つぐらいに分けて意識調査をやっておられました。

同時に、摂津市全体の構想をつくってい

くということでしたので、例えば地域福祉で地域の中に入って行って、地域福祉の分野で意見を集める、またはアンケートをする、または中学生など子どもたちの意識としてどうなのかということで、中学生に聞いたり、もしくは老人クラブであったり、それぞれの分野ごとにそれぞれに見合った意識調査をやっておられたんですね。もちろん自治会もそうです。

自治会や老人クラブの問題、今、地域の中では本当大きな問題になっておりますから、やはりこういった摂津市全般の大きな方向性を決める、指針を決めていく計画を立てていく上で、6,000人という数はいいんですけども、非常に狭められた、今までよりも狭い調査ではちょっと心もとなないなというふうに思っているんですけども、各分野、もう少し広げて、いろんな専門的な立場から、もちろん産官学では聞かれますけども、生の市民の声として聞くような機会はぜひともつくってほしいと思うんですけども、いかがでしょうか。

それから、自由記述の問題も同じです。インターネットで選択してもらうために技術的な問題だとおっしゃいましたけども、やはり自由記述というのは市民の生活の中からあふれ出てくる、しみ出てくるいろんな思いがあります。

もちろん、行政の側が求めている回答でないにしても、しかし、選択肢の中には含まれていない、しかし市民にとっては非常に重要な情報があふれていると思うんですね。そういう意味で、やはり自由記述というのは、何らかの工夫をしていただいですね、とれるようにするべきだと思いますが、その点、もう一度、お考えを聞かせてください。

以上です。

○南野直司委員長 大西課長。

○大西政策推進課長 それでは、数点、ご質問頂きましたので、お答えをさせていただきます。

まず1点目です。懇談会のそれぞれ専門家の方からのご意見についてどう考えているのかというご質問だったとは思いますが、委員のほうからも少しお話がございましたけれども、今、スケジュールを示させていただいている部分で、上半期は総括です。専門家の方にやっぱりご意見を頂きたいのは、下半期に策定をしていくところですね、特に今、総合戦略と一本化していきますので、地方創生について各分野の方からご意見を頂いていくと考えているところです。

各事業として落とし込めるのかといいますと、総合計画のつくり上はなかなか難しいと思っておりますので、トピックスの欄をつくるなり、そういう形で対応はしていきたいと考えているところでございます。

続きまして、パブリックコメントの期間についてどう考えているのかというお話でございますけれども、これも委員のほうから少しございましたけれども、パブリックコメントにつきましては、国の行政手続法が平成17年だったと思えますけれども、法改正がございまして、平成18年に本市としましてもパブリックコメントの指針を策定していったという経緯がございます。

期間についてはおおむね30日と記載をされております。本市の指針でもおおむね1か月というふうにさせていただいているところでございます。

私どもといたしましては、今、庁内会議で企画調整会議をやっているところでご

ざいます。去年もそうですけれども、ここで年1回、特に年度の初めに、パブリックコメントについて、期間のお話であったり行政手続法のご説明をさせていただくのと資料の提供もさせていただいているところでございます。

何で年度当初に周知をしているかといいますと、大体、年度の当初から計画策定していきます、最後にパブリックコメントを行ってまいります、委員のほうからのご指摘もございましたけれども、しっかり計画を立てて、パブリックコメントの期間をしっかりと設けられるように年度の当初から計画策定については考えていただきたいというのを全庁的に周知しているところでございます。

続きまして、総括とその分野別計画のお話をどう周知をしていくのかというご質問だったと思えますけれども、先ほどもお話を少しさせていただきましたけれども、分野別計画で、先ほど地域福祉計画を例えとしてお話をさせていただきましたけれども、計画をつくっている所管だけでは考えておりません。

やっぱりこういう仕組みは、今までやったことはないので、これからはやっていくことですので、政策推進課も各分野別計画の担当所管と一緒にあって、例えば、先ほどの地域福祉計画であれば高齢介護課ですし、生活支援課も計画を持っています、そこに対してのヒアリングをするときに我々も同席しながら後方支援をして、全庁的に広がるような形でやっていきたいと考えているところでございます。

続きまして、アンケート調査の属性の男女の性別のお話があったと思えます。

今回ですね、市のアンケート調査で、我々、性別をとりませんと言っているわけ

ではなくてですね、今回の調査に限っては、男女の性別についてはそこまで重きを置いているものではないので、男女の属性の聞く欄については削除をさせていただいております。

委員もおっしゃっていただいておりますように、男女の性別の属性を見たほうがいいというものも確かにあると思っておりますので、それぞれの分野別計画で事業を対象として考えたときにどうするかを、それぞれの分野別計画をつくる時にアンケート調査で考えていくものだと思っておりますので、今回、性別については削除をさせていただいているところでございます。

続きまして、6,000人の対象者数と自由記述のお話が多分あったと思います、本特別委員会においても昨年度で少しパブリックコメントのお話させていただいてはおるんですけれども、基本的に、今回の行政経営戦略、基本的には分野別計画のそれぞれの集合体が行政経営戦略であり、一昔前のお話でいいますと、現状は総合計画となっています。名前のとおり、総合的な計画となっておりますので、それぞれの福祉、教育、都市計画であったり、それぞれの分野計画の集合体がこの総合計画と考えておりますので、それぞれの分野計画をつくられるときに懇談会であり、ワークショップをやったりしております。パブリックコメントももちろん行っております。

今回については、6,000人の方に、インターネット、郵送を通じて、大きな部分で日頃どう感じられているかをお聞きしたいと思っておりますので、自由記載の欄も省いております。

以上でございます。

○南野直司委員長 安藤委員。

○安藤薫委員 まず、専門分野から専門的な意見を聴取するということでもありますので、それは生かしていただきたい。総括にも反映していただきたいし、策定の中にも入れていただきたい。基本構想までではないにはせよ、ここはしっかり反映していただきたいと思うんです。

同時にですね、やっぱり専門的な分野の方々の声と、それから、それぞれの専門分野において地域で活動されている、もしくは各分野で働いておられる、もしくは行政サービスを受けておられる市民の方の声というのをですね、やはりきちんと、私は、聴取をした上で専門的な見地からの意見と、それと市民の意識としてきちんと把握をするというのは、各分野でやるとはおっしゃいますけども、各分野でやることをこの行政経営戦略で取りまとめて全庁的な共通認識にしていくというものでありますので、ここは、今回からやってほしいなと思うんです。

今回は暫定的な行政経営戦略だというようなご説明がありました。その後、総合計画の基本構想は5年後に期日を迎えるわけで、その5年後からは、やはり基本構想部分から含めて行政経営方針というものになっていくわけですので、そういう意味では、現状の摂津市全般の状況を把握していく、市民の意識を把握していくという意味では、今回からやっていく必要があると私は思っておりますので、ちょっと意見を申し上げておきたい。

とりわけ、社会情勢の変化を踏まえた議論を実際に進めていかれるわけですから、その社会状況の変化を踏まえたものもやはりこの基本計画、今回の行政経営方針の中にも盛り込んでいくことをしないと、次の見直しのときに今回の総括が漏れ

てしまう、もしくは中途半端なものになりかねません。

現在で分かっている社会状況の変化を捉えるという点での、私は、今回、意識調査を、もっとふやせということではありませんが、もう少し幅広く、それから自由記述欄も、そんなに多くはとらなくても結構ですし、このアンケートとは別個にとるような、意見を集めるような、それこそインターネット等でですね、意見を、こういったものを計画をインターネット上に公開をして、これに対する自由記述の意見を募集するなりですね、そういうような工夫もやるべきではないかなということ、これは意見として申し上げておきたいと思えます。

パブリックコメントにつきましては、スケジュールがタイトになってしまって、最後は、取りまとめの際、委員長一任でということになって、素案が出来上がって、僅かな期間でパブリックコメントを行って、意見聴取をしましたが、意見はありませんでしたというような形でなるものよりも、きちんとスケジューリングしていただいて、しっかりと素案をつくっていただく、それに対して意見聴取をする方法と、それから期間をしっかりと確保していただいて、多くの意見を聞いた上での案をですね、案というか、成案をまとめていただくのが本来の筋だと思いますので、これは、重ねて強くお願いをしておきたい、要望しておきたいと思えます。

それから、全庁的な問題については、繰り返しになりますのでやめますけども、現段階でもやはり、自分の部署のこと以外について、やはりちょっとおざなりになっている、それから連携がなかなか取り切れてないというところも、ややもするとあると

思うんですね。

それが果たしてどうだったのか、反省点も含めてきちんと総括をしていただいて、次に活かしていただきたいということは、これも要望しておきます。お願いしておきたいと思えます。

先ほどもSDGsの推進の関係の専門の方もですね、新しい考え方であったり、国際的な取り組み、目標、持続可能な開発目標と言われておりますし、それから、性的マイノリティの問題であったり、または感染症に対する人類のこれからの進むべき道であったり、いろんな、本当に幅広く大きな課題が突きつけられている中で、今回、総合計画の中の基本計画部分をということでもありますけれども、そういった視点をしっかり持った上で私は議論を進めていただきたい。

しっかりと総括をしていただいて、ご報告頂けたらと思えますので、お願いしておきます。

以上です。

○南野直司委員長 ほか、ないでしょうか。

三好委員。

○三好俊範委員 では、数点お伺いしてまいります。

前回、委員会の中で進捗状況のほうを把握すべきだと、数値化するべきだということで、今回、この総括評価シートというのをつくっていただいて、本当に見える化が進んで分かりやすくしていただけるんだろうなというところ、本当に評価いたします。

その中で、数点ちょっとお伺いしていききたいのが、まず、課題の洗い出しをされるということです。

課題の洗い出しをされるのはいいんですけども、パターンがあると思うんですけ

ども、例えば、進捗率が著しく悪いであるとか、特に変わりはないであるとかの状況に関しては是正が必要と考えられます。前回のとおりにやっていってれば、恐らく率は上がらないだろうと。

そういうのも、私が見ている限りは恐らく幾つかあると考えられますけども、その浮き彫りになったものに対してどのような是正を行っていくのか。その課だけでは正直厳しいというか、言い方悪いですが、課だけに任せるよりも、副市長なり何なりの立場から是正してもらうことが必要なのかなとも思うんですけども、そういうところをどういうふうと考えてらっしゃるのかというのが、まず1点ですね。

逆にですね、例えばですけど、進捗率90%を超えているという場合でしたら、残り、あと10%を達成すれば目標値なわけです。その場合ですね、それも5か年という形で考えられるのか、それとも1年後までに、例えばですけども、100%を目指す、そこで達成という形にされるのか。これはあんまりだと思うけど、例えば120%を次は目指すのであるか、その状況によって違うというのは分かるんですが、逆に言うてしまうと、別に100%を達成すればそこで終わっても僕はいいのではないかなと。逆に、それを維持していく作業が必要ではないかなと思うんです。

その場合は、5か年計画ではあるが、途中で目標値というか、期間を設定する必要があると思うんですが、そういうところをどのように考えてらっしゃるのかですね。

その下ですね、施策の課題についてです。

進捗率が90%のところとかあると思うと言うたんですけども、逆に言うと、そういうところは、ある程度、課題がないと僕はちょっと思ったりもします。

無理に課題を洗い出さなくても、やってはるところはきちっと評価してあげてほしい。無理に書き込まないといけないというわけではなくて、まあまあ、何もないというたら確かに言いにくいところもあるとは思いますが、無理くりになんか書かすような形ではないようにしていただきたいなと思います。

アンケート調査の分、つまり市民意識調査の分ですね。安藤委員のほうからも質問がありまして、ネットでも今回やられると。IDを用いて実施されるので、香川県の例えばゲーム条例のような、同じような人が何回も何回も回答されているというようなことは恐らく防げるだろうと認識しました。

ただですね、なかなか中身が専門的な内容が多いです。我々に出していただいている、この理事者の方も使うであろう総括評価シートにも、この分野のものはこのページですとか書いてあるわけじゃないですか、見やすいようにされているわけですね。

だから、このアンケートに関しては、逆に資料が多過ぎたらやりにくい、回答しにくいという一面も確かにあると思うんですが、どんと出して、これについて答えてください、これについて答えてくださいという形になってしまうので、恐らく分からないっていう方が大いにあるんじゃないかなと。何のことだろうという意識が少しあるんじゃないか。

その場合、僕ならば、これ、何のことか分からないってなったときに、どこに丸をつけていいか分からないという判断になると思います。調べようと思っても、詳しい人でしたら調べられると思うんですけど、どこを調べたらいいか分からない、ど

のページを見たらいいか分からない、例えば、総合計画にたどりついてはですね。というのはあると思うんです。

その場合、ちょっとどういうふうを考えているかというか、選択肢として分からないというところも付け足していいんじゃないかなとも思います。

ただ、それが行政にとって、これ、多分、1点、2点、3点、4点、5点みたいな形で最終まとめられると思うんですが、全く知らないことを何点にされるのか、そこは確かに悩まないといけないところではあるんですけども、その場合、ちょっとどういうふうを考えてらっしゃるのか、そういう可能性というのはあり得るのか、ちょっと教えていただきたい。

あと、資料として同じように今言いましたが、総合計画を同時に附属することとかはなかなか厳しいと思うんです、すごい分厚くなるので。

ただ、この分野に関しては、例えばネットの何ページに載せてますであるとかいう形で、興味ある方に関しては、調べる補助をしてあげられるような仕組みをつくらうと、例えば考えてらっしゃるのか。もし、なければ、できたらつくっていただきたいと思っているんですけども。

例えば、多分、無作為に送りますので、今までの計画があったことすら知らないという人もいらっしゃると思うんです。そういう方たちへのフォローというか、知識をつけていただくという形でのフォローを何か考えてらっしゃるのかというのをお聞きしたいです。

1回目、以上です。

○南野直司委員長 大西課長。

○大西政策推進課長 そうしましたら、5点のご質問についてお答えをさせていた

だきます。

まず1点目です。指標についていろいろご意見を頂きまして、指標が悪かった分についての事業の是正をどうしていくのかというお話です。

今、委員もおっしゃっていただいていますように、指標が悪かったとなりますと、この事業について、やり方が果たしてよかったのか、はたまた、対象者はそれでよかったのかとか、事業を見直す上では必然になってくると考えております。

ただ、一点申し上げたいのは、この数字が初期の設定をしている数字についての、妥当性というのはもう一度振り返るべきだと思っております。まず、そこの初期設定の数字の妥当性も今回もう一回振り返ってみながら、次の事業につなげていきたいと考えているところでございます。

2点目でございます。

数値100%と120%を目指していくのかというところでございますけれども、基本的にはやはり100%を目指していくものだと、考えているところです。

先ほど、一つ目のご質問と同じような話にはなってくるんですけども、そもそもこの数字が100%というのは、あくまで初期に設定した目標値についての100%になってきますので、この初期の目標値についても、今回改めて振り返って、そこについて妥当性があったのかということも含め、次の計画につなげていきたいと考えているところです。

100%のところの分でございますけれども、次の計画には基本的には100%にはほぼ近い数字に関しては、あまり上げる考えは持っておりません。

数字も、事業、施策で、一つでやっぱりはかれませんので、次の新たなはかるよう

な指標を持ってくるというのが一番いいのであらうと思っているところが一つと、今の計画を見ておりますと、何かをやりましたという活動と言われるような指標を用いているものと、やった結果こうでしたという成果を用いている指標と、二つ混在している状況になっております。

そこをですね、結果どうだったという成果の指標に基本的には極力置き換えていきたいと思っているところです。

ただ、この成果というのものはかかれるものとはかれないものとございますので、100%にするのはどこまでいっても難しいですけれども、より、精査をして、次の計画では変えていきたいと考えているところでございます。

次でございませう。今回の総括シートの課題についての考え方でございませう。

指標がおおむねいい数字が出ていれば、やっぱりそこは無理やり書く必要はないのだらうという話で、それは、委員がご指摘のとおりだと考えております。

ただ、この評価シートにつきましては、施策を総括しているという形になっております。この施策の展開のところ以降というのは、おおむね事業の話とかになってきますので、一つの事業については確かによかつたと思ふんです。

ただ、その施策を見たときにやっぱり、さっきも申し上げた、社会状況も変化していきます。新たな課題というのあれば、やはりここには記載しておくべきと思ふます。やっぱり次につなげていく考え方を、今のところ考えております。

続きまして、アンケートのところでございます。

回答は、今、5段階になっていまして、委員がご指摘の、回答が分からないといっ

たときの場合、分からない欄をつくるのはどうだというご意見だったと思ふんですけれども、分からないという部分に関して、今のところ、我々としてはつくることは考えておりませう。

ただ、次のご質問でもございましたけれども、やはり正直、今の設問だけでピンとくるのかこないのかと言え、なかなか難しい部分があり悩ましいと思っております。

委員からもお話がございましたけれども、総合計画のどこに載っていますよとかっていうようなのは、少し鏡文のところ、工夫をしていきたいと考えております。

今回、QRコードを用います。総合計画についてもQRコードなりURLをお示しをしていく検討をしていきたいと思っております。

以上でございます。

○南野直司委員長 三好委員。

○三好俊範委員 少しだけ、最後にお聞きします。

数値の妥当性について、前回、私が言わせてもらいました。達成可能な目標をつくるべきだと申し上げましたので、妥当性に関してはぜひやっていただいて結構だと思ふます。

そこで、成果の数値化をしていく、達成率や進捗状況を出していくということですが、数字としてなかなか表すのが難しい部分もあるというふうにおっしゃられました。

そこに関してはいろいろな分野がありますので、一元化というのはなかなか難しいとは思ふんですが、ちょっとチェックをして、これ、要望ですけど、なぜ、この数字にしたのかっていう根拠に関しては必ず各課に確認していただいてほしいんです。

正直、いろんな立場の方から見ると大分意見は変わると思うんですが、そこの課にだけ任せてしまうと、言うたら悪いですけど、過大評価されることもあります。逆に過小評価されるような形もあると思います。なので、そこに関しては、数値化はなかなかしにくい部分に関しては、一度ちょっと目を通していただいて、ちょっと是正が必要であればしていただくような、ある程度確かな数字というかですね、感覚だけで出した数字っていうわけではなく、ある程度、一定の評価、基準のもと出されたものを、ちょっとお願いしたいなと思います。

課題については理解しましたので結構です。

アンケートにつきましても一定理解しました。調べようと思えば調べられるようにぜひしていただきたい。何のことか分からないというのを極力なくせるように、QRコードからアクセスして、じゃ、設問の1番は何ページに載っています、その何ページをすぐリンクで飛べるような形、もしくは画像を貼り付けるなど、そういう形で何らかの工夫をちょっとしていただきたいなと思います。

最後の一点、分からないっていう方に関しては項目を設けるつもりはないとおっしゃられました。恐らく分からないっていう方はどちらとも言えないというところに点数をつけると思います。

それに関してはですね、一定、これ、どちらとも言えないのは3点なわけですよ。不満の1点よりもいいわけですよ。不満を持っている方より知らない人のほうが点数はいいような形になるわけですよ。

例えばですけど、市民の活動が活発なまちにします、最初の設問ですよ。市民団体からの公益活動の支援であるとか、広報

誌の市民活動への情報提供であるとか。これ、正直、不満がある方よりも知らないのほうが、僕はちょっと点数的には低いんじゃないかな。何をやっていることすら知らない、何も恩恵を受けてないということです。それが3点になるっていうのはなかなかどうなのかなというところではあります。

設問というか、選択肢がふえればふえるほど答えにくくなるという弊害も確かにあるんですが、そのあたり、例えば、このどちらでもないが多過ぎた場合ですね、恐らくその中には知らないも入っていると思うんですが、そういうところをどう評価、こうやって意識調査の回答にどう役所内で分析していくのか、どういう考え方をされるのか、ちょっとそこだけ最後一点お願いします。

○南野直司委員長 大西課長。

○大西政策推進課長 ご質問にお答えをします。

その5段階評価につきましても、一般的に、3点を普通となるんですけれども、そちら、文言でも記載をさせていただいておりますけれども、どちらとも言えないというふうになると、普通という形で考えているというわけではございません。

評価シートのところには数値の分布図を表記させていただきましますと申し上げさせていただきます。ですので、そこで、1点というのがどういう意味、2点というのがどういう意味というのは、併せて載せていこうと考えているところです。

このどちらとも言えないという数が多かった場合どう考えるんだというお話でございますけれども、これ、多分、今、委員からもお話があったように、どちらかという、知られていないというのが一番に

なってくるんだろうと考えています。

シティプロモーションのお話でも少しございましたけれども、やっぱり我々としてこういう事業をやっているんですよっていうのを売り込みにいって言ったら変ですけども、市民に情報を出していって言ったら変ですけど、まあ、売り込んでいくというような形のことを今後やっぱり力を入れてやっていかなければならないと考えております。

以上でございます。

○南野直司委員長 三好委員。

○三好俊範委員 分かりました。どちらとも言えない場合は、そこに重点的に周知の仕方に力を入れていくことになるんだということによって一定理解いたしました。

最後、これ、要望にしておきますが、この総括評価シートの意識調査結果のところでは3点は3点になってしまうわけなので、ここに別に載せなくてもいいですけど、別紙でも結構ですので、例えば、どちらとも言えないを1回抜いた、1、2、4、5だけの評価値みたいなものを一度出していただけたら、ちょっと分かりやすいのかなとも思いますので、ちょっと参考というか、要望をしておきますので。

以上で終わります。お願いします。

○南野直司委員長 ほか、ありませんか。

檜村委員。

○檜村一臣委員 いろいろ質問が出ていますけども、最初にちょっと基本的なことをお聞きしたいんですけど、今回のスケジュール案があつてですね、3月までの予定ということであつて、今回、中期から後期に向けて、総括を含めてということであつて進められていくと思うんですけども、まず基本的なことなんですけど、5年前に前期から中期に向けてという形で進められて

いたと思うんです、それもスケジュールがあつて進められていたと思うんですけど、今回の意識調査も含めて、5年前と今回とを比べてですね、このスケジュール案の中で、その懇談会のこともあるかと思うんですけど、ちょっと違う点、内容についてちょっとお聞きしたいなと。

ちょっと5年前のときにいてなかったもので、どういうふうにやられていたかということが分からないので、前期から中期にかけて、今回は、中期から後期にかけてですよ。だから、大きなところで分かる範囲でいいので、ちょっと今回、後期に向けてのところ、こういうところを足したとか、こういうところを変更したとか、意識調査はこういうところを変えたとか、何かそういうちょっと違ったところについて、基本的なことでも申し訳ないんですけど、ちょっとお聞きしたいなと思います。

それで、パブリックコメントの件についてなんですけど、先ほど、安藤委員がおっしゃられてたとおりで、やっぱり、今回いろいろ地域防災計画であるとか、ほかの計画であるとか、いろいろこの春に向けてパブリックコメントを行われると思うんですね。

思うんですけど、やっぱり今、コロナ禍にあつてということで、いろいろ諸事情もあつて、なかなかできたところ、できていないところとかあつてあると思いましたが、翌年度以降もそういった社会情勢がどうなるかっていうふうな分からない中では、さっき、30日とかという話もされていましたが、やっぱりある程度、期間を設けてもらって、それなりにきっちりやっていただいてということでは、僕も安藤委員と同意見なので、その辺についてはいただきたいと思います。

それで、意識調査の件であって、ちょっとかぶるところもあるんですけど、まず、総括評価シート最後のページに市民意識調査結果ということがあって、平均をとってここに挙げられるということなんですけど、その平均値というのは、整数で表すのか、小数点第1位までとって表されるのかということで、この四角の図、どういうふうになるのかっていうこと、お聞かせいただきたいんです。

それと、先ほど、三好委員のほうからありましたように、必ず、今回、アンケートを6,000人で、地域も5中学校区に分けて、年齢層についても、ある程度分けられてというふうにされていくということはお聞きしているんですけど、やはり年齢層が分かれている中で無作為というふうな形になると、先ほど、意見があったように、見た人がやっぱり総合計画のことをどれだけ分かっているのかというふうなことについては、僕も、三好委員が言われてたとおりだと思うので、その辺については、ある程度、総合計画について分からん人に対してやっぱり促す。何らかのものを設けてあげるほうが、絶対、回答率が上がると思うんですよ。

だから、そのアンケートをもらった人の立場からすると、やっぱり全然分からへんってなったら、俺、知らんからと言って、やっぱり回答せんとことか、そういうふうに思われる方もいてるんで、やっぱりちょっと知ってもらおうということでは、何らかの形をとっていただくっていうことをしていただけたらと思います。

それと、さっき、どちらとも言えないっていうことも言われてたと思うんですけど、僕も全く同じ意見で、これって結果的に、極端な話で言ったら、あんまり摂津市

をよく思っていない人とかそういう人が、要は1ばかりにつけるとかそういうこともあったりとか、逆に、さっきの話じゃないですけど、何か3ばかりに丸つけるとかいうことであって、結果的に、さっきの平均値の話しましたが、これが2.8ぐらいになったり、3.5ぐらいになったりとかっていうふうになるんですけど、やっぱりその辺についても、どれに丸するかっていう、チェックして送るっていうことについてはやっぱりちょっと考えるべきであるのかなっていうふうに思ったんで、別にこの1から5にすることがよくないって言うているわけじゃないですけど、ちょっとそういうふうに思います。

それと、5年前とアンケートの違いはまだちょっと聞いてないので分からないですけど、結果的に、施策ごとに満足度は3.2とか、期待度は2.8とかになって、その位置になるんですけど、その結果を見て、前回も同じようなアンケートで比較されて、あるのかないのかは分からないですけど、やっぱり次に、その平均値を出した結果を受けて、次、どのように市として結果を見てしていくのかっていうのがちょっと気になるので、数値としてこうだったよ、平均値こうでしたっていうことで、何もしないっていうことっていったら、本当に満足度と期待度の数値を、結果を聞いただけみたいな感じにすごく思うので、その後について、5年前との比較も含めて、ちょっと教えていただきたいなと思います。

1回目、以上です。

○南野直司委員長 大西課長。

○大西政策推進課長 そうしましたら、数点のご質問を頂いておりますので、お答えをさせていただきます。

まず、策定のスケジュールについて、前

回の中間のときとどう変わっているんだというお話でございます。

全体の作業スケジュールについては、ほぼ前回と同様な形で進めていると考えております。

ただ、その中身の部分でございますけれども、大きく違いますのは、前は総合計画だけの、基本計画の部分だけだったんですけれども、今回、総合戦略ですね、本来であれば令和元年度末で終了しているところを、1年延長させていただいております。

ここを合わすことによって一つにする。その一つにしていくときに、振り返りも一体的に振り返り、策定するのも一体的に策定していくというところが前回と比べて大きく変わっているという部分でございます。

評価シートの市民意識調査の平均値の考え方で、整数なのか、小数点までなのかというご質問だったと思いますけれども、今、想定しておりますのは、小数点第1位までは記載をしていこうと考えております。

続きまして、アンケートの分かりやすさという部分のご質問だったとは思いますが、先ほど、三好委員のご質問のときにもご答弁をさせていただきましたけれども、お送りさせていただくときの鏡文についてはまだ作っておりません。先ほど申し上げましたけれども、URLなり、QRコードなり、現在、市のホームページで総合計画、総合戦略をアップしておりますので、そちらにつながるような形で工夫はしていきたいと思っております。

5年前の市民意識調査と今回の市民意識調査、どこが一番違うんだというお話な

んですけれども、何点かございます。

大きく申し上げますと、まず、前回については11ページのアンケートの調査枚数になっていましたのが、今回5ページぐらにとどめているというのがまず1点。

では、このおおむね6ページ、何が減っているんだというお話なんですけれども、前回のときにはですね、先般策定いたしましたシティプロモーション戦略とかでよく聞かれるような、市のイメージとか、どういうふうに思われていますかとか、通勤は何を使ってはりますかとか、交通手段はとか、そういう項目を前段でかなり聞いているという部分と、あとは、総合戦略の部分がございましたので、結婚についてとか、出産についてとか、そういう項目とかも聞いていた部分もありましたので、直接、全体的な施策についての総括という部分と、プラスアルファでいろいろ聞いていったので、ページで11ページ、設問数で言うと28問なんですけれども、そこに枝番がついているので、実際に申し上げますと50以上の設問をしていた状況になっているところが、前回と今回では大きく違っているところでございます。

以上でございます。

○南野直司委員長 榎村委員。

○榎村一臣委員 まず、スケジュール感のお話なんですけど、経営戦略の部分でということであったんですけども、それからすると、懇談会的なものというのは、その5年前とかそういうときもあったのかどうかということも、今の回答の中ではあったので、それがちょっと聞きたいのと。

それと、ごめんなさい、アンケートの話でちょっと一つ聞くのを忘れてたんですけど、さっきのちょっとIDの話あったじゃないですか、どこからでもということに

ならないようにということなんですけどね、そのIDっていうことで、何かその番号があるんだろうと思うんですけど、そのある番号について、要は言うたら、アンケートに答える人を特定することにはならないのかどうかっていうことがあって、個々に番号が付随しているものなのか、よく分からないのが、IDがあるから防げるっていうことなんですけど、統一された番号とかであれば、ひよっとしたら誰でも入っていきえるとかっていうことがあって、逆に、個々に番号が付いているのであれば、逆に個人を特定できるようなことになったり、よそからは入れへんけど、そのアンケートをウェブでやろうとした人が、自分が誰やっていうことを分かってしまうっていう恐れとかはないのかっていうことを、ちょっとIDの話聞いていて、それは思ったので、そこはどうなのかっていうこと、ちょっと先に教えてもらえますか。

○南野直司委員長 大西課長。

○大西政策推進課長 そうしましたら、2点のご質問にお答えをいたします。

まず1点目でございますけれども、5年前も懇談会があったのかというお話なんですけれども、総合計画自体の中間見直しのときには懇談会というのは、やっておりません。

ただ、冒頭のご説明でも私申し上げましたとおり、総合戦略をつくる場合においては、地方創生の観点から専門家の知見的な意見を伺うようになっておりますので、5年前の総合戦略をつくるときには行っております。

2点目の、アンケート調査のIDのお話でございますけれども、IDは全てばらばらでございます。ただ、宛名とはランダムでやってまいりますので、あらかじめ、こ

の人はこの番号ですっていうのをひもづけてはやっておりません。

調査票のほうに先付でIDをつけますので、無作為でどんどんどんどん封筒に入られていきますので、宛名の名前とIDがひもづくということは基本的には考えておりません。

以上でございます。

○南野直司委員長 檜村委員。

○檜村一臣委員 分かりました。

特に懇談会の部分については、行政経営戦略の部分でということ、中身については、先ほど何度も安藤委員のほうから質問されてましたので、できるだけ細かくというか、専門家の意見を取り入れてもらえるような形にしていきたいということで、要望だけにしときます。

アンケートについては、それぞれするけども、ランダムでということ振るので、その人を特定することにはならないということで理解しました。

やはり結果的に平均値が3.8とか2.5とか、小数点第1位で、あと、四捨五入するか、切捨てにするか、繰上げするか、ちょっと分からないですけども、そうなるということ。

正直、さっきも言うたように、あんまり1ばかりに寄るとか、3ばかりに寄るとかっていうふうになったら、やっぱりちょっと問題あると思うんで、その辺はいろいろ考えていただきたいということもありますし、先ほど、ちょっと三好委員の質問にもあって、今、その目標値と令和元年度の数値を入れてということについてなんですけども、そもそもの目標値の指標自体を見直すってことは、それはそれであると思うんですけども、結果的に、この令和元年度の実績値についてどうのこう

のとかってということも含めて、これが市民意識調査には分かるような形にはならないですよ。

だから、その辺もあってちょっとどうかなどという部分もあるんですけど、目標値の見直しも含めてしっかりやっていっていただきたいなというふうに思いますので、要望だけして終わります。

○南野直司委員長 森西委員。

○森西正委員 今、これを進めておられるのは、今後の摂津市のさらなる成長のために、これ、今進めておられるわけですよ。衰退をするために進めているわけではないので。

他の委員も多くの質問をされたんですけども、まずですね、アンケート、5年前に比べると、やはり項目数は少なくしているということの、檜村委員の質問でお答えがあったんですけども、その中に、イメージとか、交通手段とかですね、それは今回は削除しているんですということがあります。

私は、その部分のアンケート自身はとることは必要なのかなってうかね、市民の意識を知るためには必要なのかなと思います。

ただ、これが、今回の部分に関して必要であるのか、もしくは、他の様々なアンケートをとって、それが、市として集約できて判断ができるということであればいいと思うんですよ。

今まで、同じ項目を、各課とかですね、いろいろなアンケートをとられて、重なる質問もいろいろとあって、私もアンケートを頂いて、同じようなことをやっていて無駄だなというところがあって、そこは、各課とかですね、事業によってそこはすみ分けをして、そのアンケートのとり方もす

み分けをしたうえで、最終的にそのアンケート調査という部分が一つにまとまってですね、それが摂津市のこのまちづくりの事業に対して反映ができたらというふうには思っているんですけども、その点、5年前と質問数が減っているというところで、そういうアンケートのとり方というのと、それと、別でとられたアンケートを反映していくのか、その点をお聞かせいただきたいと思います。

それと、事業に対して今回アンケートをとられますけれども、もっと大きな話の中で、イメージとかっていうふうにあったんですけども、まず、住民が摂津市に住まわれていることに対して満足をしているのかどうかとかですね、そういう部分のアンケートでは今回はとられないという形でいくのか、もしくは、別のところのアンケートでそういうことっていうのを聞くということをつくれるのか、それについてお聞かせをいただきたいと思います。

市役所に対してですね、市民が市役所に対して満足をされているのかどうか、職員が平素、市民に対してサービスをしていることに対して満足をされているかどうかということも、併せてお聞かせをいただきたいと思います。

安藤委員からありましたけれども、災害とかということでも社会情勢が変わってということでもありますけれども、今回のものを見ている中ではですね、例えば、地震とか台風とか、今回の新型コロナウイルス感染症ですね、その対応に対して市民に聞いて、満足をされているか、市の対応ですよ、満足をされているかどうかというようなことを、私は聞くべきではないのかなと思うんですけども、そういう考えはないのか、お考えをお聞かせいただきたいと思

います。

それと、これは摂津市の市民の方に、つまり住んでおられる方に聞かれるわけですが、摂津市で住まれてない方、言うたら、市外で住まれている方が摂津市に対してのイメージとかですね、なぜ、摂津市に住まわれないかというような、そういうこともこの行政経営戦略に盛り込んでですね、そこは、市民の方だけではなくて、市外の方の意見というのにも反映をしていかなければならないのかなと思うんですけれども、その点のお考えもお聞かせをいただきたいと思います。

1回目、以上です。

○南野直司委員長 大西課長。

○大西政策推進課長 大きく分けますと、3点のご質問だったと思います。

まず、1点目、そのアンケートについて、例えばサービスの項目であったり、細かい項目というのを入れていかないのか、それとも別にしていくのかというご質問だったと思います。

今回のアンケートについてそういった項目を入れていく考えは持っておりません。

ただ、委員からもご指摘ございましたように、その各課共通となるような部分についての仕掛けというのはこれから大事なところだと思います。

これ、必ずできるかどうかは申し上げるのはなかなか今難しいんですけれども、考えておりますのは、今、市政モニター制度をやっております。母数は、今回の6,000人から比べたら数百人となりますので、少なくともはなるんですけれども、年2回、定点でできる利点もございますので、こういったものを活用しながら、定点観測をする仕掛けづくりというのは必要ではない

かなと考えているところでございます。

二つ目でございます。新型コロナウイルス感染症の対応についての設問もというお話なんですけれども、これも一つ目と同様に、今回のアンケートにつきましては、この5年間についてお伺いをしていところでございますので、あくまで、この直近で起こった事象をフューチャーしてでの聞き方は今のところ考えていないところでございます。

ただ、やはりこの新型コロナウイルス感染症というのは、最大の皆様の関心事でございますので、このアンケートで申し上げますと、その期待をしていくというところで、多分、そこが、例えば医療であったり、危機管理の部分であったりというところが、期待度が多分伸びてくるものと想定しているところでございます。

三つ目でございます。前回、シティプロモーションという概念自体はあったんですけれども、それを専門的に取り扱うセクションというのが本市にございませんでした。

その後、5年が経過していくうちに、現在の広報課のほうでシティプロモーションについて、事務分掌上も明記され、また、シティプロモーション戦略をつくっております。

市の魅力、どう思われているかというイメージ戦略という部分については、今のシティプロモーション戦略を担っている広報課で大きな部分のアンケートはとっていくべきと考えているところでございます。

以上でございます。

○南野直司委員長 森西委員。

○森西正委員 まずですね、総合計画ということでもありますけれども、その中でも何

をとという部分はあろうかと思うんですけれども。

要望ですけれども、先ほども言いましたけれども、市民がどういうふうにご考えておられるかというところの、その意向というのは、様々な角度からそこは把握をしていかなければならないと思いますし、その把握をしたところを、これが、行政経営戦略が本市の中心になるわけですから、そこにどうやって反映をしていくかということになるわけですから、今回のとられているアンケートも含めて、ほかの課、もしくはほかのアンケートっていう部分もあろうかと思えます。その部分も行政経営戦略に入れていくべきだと思うんですけれども、その点の考えというのが、まず、あるのかないのかですね、今回のアンケートだけだということになるのか、その点、ちょっとお聞かせをいただきたいと思えます。

それと、また、他市に住まわれている方という考えですね、摂津市に対するイメージというところが、以前、摂津市から転出をされた方に対してアンケートをとられたっていうこともあったと思うんですけれども、そういうところがもう既にデータとしてあったりとかっていうことなんですけれども、先ほども言いましたけれども、そこ、そういうアンケートをいかに活用するかというところというのが考えていかなあかんと思うんですけれど、併せてお聞かせをいただきたいと思えます。お願いします。

○南野直司委員長 大西課長。

○大西政策推進課長 それでは、1点のご質問で、様々なアンケートがございますが、それをどうこの行政経営戦略に生かしていくのかというお話ですけれども、次の計画をつくる上でですね、この市民意識調査だけをもって何かをつくっていくという

ものではなくてですね、総括評価シートも、今日お話をさせていただいてますけれども、様々な指標であったり、総括評価シート、市民意識調査など、どう感じられているか複合的に考えていって次の計画をつくっていくかなければならないなと思っております。何か一点だけを特化して見るというものは考えておりません。

ほかの調査ものと今回のアンケート調査をどう考えるんだということなんですけれども、意識はしていきたいなと思っておりますけれども、例えば、様々な調査をやっておりますけれども、それを全て網羅してっていうところまでは、今のところは考えておりません。

前回やっておりました、市のイメージという部分に関しては、シティプロモーション戦略のところの調査ものがありましたので、それは参考に転用していきたいなと考えております。

以上でございます。

○南野直司委員長 森西委員。

○森西正委員 市民の方が住まれて、実際にサービスの提供を受けておられるというところでの、その満足度をされている、満足度をされていないという、そのところとですね、全く摂津市に住まわれたことがない、もしくは、摂津市に来られたことがないという方がっていうのは、そのところはイメージでしか摂津市のところの判断をされていないわけですよ。

まず、摂津市が成長していく上ではですね、そこはやっぱり人口をふやしていく。摂津市に住みたいと思ってもらえるようにせなあかんわけでありまして、まず、そのところで住みたいと思ってもらえるまちづくりを考えていかなければならないと思えますので、そこも、だから摂津

市外の方もですね、そういう声をどうやった拾えるのかっていうのはあると思いますけれども、そういうところも考えていただきたいと思いますので、要望とさせていただきます。

○南野直司委員長 光好副委員長。

○光好博幸委員 いろいろ質問も出ましたので、私のほうからは、質問というより、意見というふうに捉えていただければと思います。

案件で言いますと2に係るところだと思えますけど、私自身が思っているのは、この総括評価シートですかね、いわゆる棚卸しということで行きますと非常にやっぱり重要な作業でもありますし、有効であるのではないかなと感じました。

また、ご説明にもありましたけれども、これは総合計画であって、総合戦略の両面から項目を引っ張り出してきてやっているということで、やっぱり各所管になろうかと思えますので、やっぱりぜひ時間をかけて丁寧にやっていただきたいと感じています。

中身で言いますと、特に3ページですかね。先ほど来から出ています指標の話であったり、あるいは、4ページの施策の総括というところが重要になってくるんだろうなと思うんですけど、先ほど来から出てくる4ページの市民意識調査、私が感じているのは、先ほどから、今の実際のどういった具体的な施策があるんだとか、それに対してどうだというのは、非常に一方で大それたと思えますけど、市民の立場で考えたときに、やっぱりそこまで細かく意識されているのかなというふうに、正直思うところがありますので、私が思うのは、やっぱりこの中の項目の頭出しと言いますか、例えば、道路が整備された安全なまちにしま

すとか、あるいは、例えば、公共下水道による快適な生活ができるまちにしますということに対して、実際、市民がどう感じているのかとかいうのを率直に書いてもらうという意味では、今、実情、進めているいろんな施策に対しての市民のイメージというところを重ねたら、ギャップとか方向性が出てくるので、丁寧に対応するところはしつつも、ばくっとギャップを見るという意味では、僕はこれが有効じゃないかなと思いますので、それをしっかりと捉えていただくということと工夫も加えてやっていただければなと思います。

いずれにしても、私が思っているのは、総括評価シートのやっぱり施策の総括、施策の課題というところが最も重要になってくると思いますので、やっぱり各所管でいろいろ作業をやられると、三好委員も言われてましたけど、甘く評価したり、辛く評価したりっていうのもあると思うので、そのレベル化をしっかりと押さえてもらいたいなと思います。

いずれにしても、すごく労力がかかることだと思えますので、各所管課と協力しながら、ぜひ粘り強くやっていただければと思います。

以上でございます。

○南野直司委員長 ほか、ないでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○南野直司委員長 それでは、本委員会を閉会したいと思います。

(午前11時48分 閉会)

委員会条例第29条第1項の規定により署名する。

総合計画及び総合戦略等調査特別委員長
南 野 直 司

総合計画及び総合戦略等調査特別委員
安 藤 薫